

平成 27 年 2 月 13 日

各 位

会社名 竹本容器株式会社
代表者名 代表取締役社長 竹本 笑子
(コード番号：4248 東証第二部)
問合せ先 執行役員総務部担当 戸田 琢哉
(TEL. 03-3845-6107)

中期経営計画の策定に関するお知らせ

当社グループは、2015 年 12 月期を初年度とし、2017 年 12 月期を最終年度とする中期経営計画を策定いたしましたので、その概要を下記の通りお知らせいたします。

記

1. 中期経営計画策定の背景

当社グループにおいては、日本国内で 50 年間プラスチック製包装容器の販売を行ってきており、自社で金型を企画開発し保有するスタンダードボトルビジネスを展開してまいりました。海外展開では 1996 年に中国へ進出し現地生産、現地販売の体制を構築してまいりましたが、2013 年度には中国国内での売上高が 20 億円を超えるに至りました。これまでの成長は日本や中国において当社グループが提供する「商品の価値や個性を強める容器や内容物を安全に包み保存する容器」を求める顧客層の拡大に応じて当社がスタンダードボトルを的確に提供することができたことによるものと考えています。

現在東南アジア地域においても経済成長が進み当社が提供する付加価値の高い包装容器に対する需要が拡大しつつあるものと認識しており、今後これらの地域においてスタンダードボトルビジネスを展開することが当社グループの成長に必要と考えています。

また、日本国内においても製品ライフサイクルの短縮化が進行している結果、化粧品や日用雑貨品の新製品開発にあたっては独自の金型投資は行わずに個性的な包装容器を調達したいとする需要は根強いものと認識しています。

当社グループにおいては、このような国内外の潜在的需要の拡大に即した営業活動を展開すると共に、顧客に魅力的な包装容器を提供するための新製品開発力と品質の高い製品を安定的に供給するための生産体制の強化が必要であると考えており、中長期的な視点からこれらの課題に取り組み、持続的な成長と企業価値の向上を図るため、2017 年 12 月期を最終年度とする中期計画を策定いたしました。

2. 成長戦略及び具体的施策

①新製品開発体制の強化

2014 年 12 月期においては日本と中国で 203 型の自社金型を開発いたしました。金型設計ならびに中国子会社における金型製作体制をさらに強化していくことで 2017 年には当社グループにおいて、自社金型及び顧客の注文による金型を含めて年間 500 型を製作する体制を構築していきます。

また、製品の品揃えという観点では、化粧品、食品、医薬品分野向けにデザイン性や機能性の高い包装容器の研究開発ならびに新製品開発を継続してまいります。

②国内外の生産体制強化並びに安定生産の確保

金型の増加に伴いグループとしての成形、印刷、二次加工といった生産工程の増強も必要となります。2015年2月には富山県内で建設中のジェイ・トム事業所の新チューブ専用工場が竣工予定であり、安定生産と受注増加への対応が行える予定であります。そのほか、将来へ向けた供給能力の強化のため、国内外において生産力強化へむけた様々な取組みに着手してまいります。

この一環として、グローバルな生産体制の構築のためインド国内及びヨーロッパでの生産拠点の立ち上げを行うことの検討を行っております。

③営業力強化

現在積極的な営業活動を展開している日本、中国では新製品を含めた製品情報を的確に市場にお伝えし、顧客のニーズをくみ上げる営業活動を継続してまいります。

さらに米国子会社は営業力の増強、タイ駐在員事務所については営業活動が可能な体制への変更を行い現地に密着した営業展開を強化してまいります。

3. 業績目標等

(単位：百万円)

	2015年12月期	2016年12月期	2017年12月期
売上高	11,605	12,690	13,720
営業利益	1,040	1,140	1,260
経常利益	1,017	1,120	1,240
当期純利益	672	745	820

減価償却費	695	870	1,048
設備投資額	1,538	2,247	1,450
(うち金型)	501	800	1,000
EBITDA	1,735	2,012	2,310

以 上